

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	トヨタテクニカルセンター下山 II 期中工区 宅盤6	階数	地下0階地上5階
建設地	愛知県豊田山下田代町下月沢1番地309番岡崎市外山町字モリヤ9番地1他157番	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	1,860 人
気候区分	5地域	年間使用時間	2,160 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年10月 予定	評価の実施日	2019年8月1日
敷地面積	1,636,061 m <sup>2</sup>	作成者	森 明生
建築面積	7,512 m <sup>2</sup>	確認日	2019年8月1日
延床面積	29,260 m <sup>2</sup>	確認者	森 明生



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算  
 ①参照値 100%  
 ②建築物の取組み 76%  
 ③上記+②以外の 76%  
 ④上記+ 76%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub> 排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5  
 Q1 室内環境: 4  
 Q3 室外環境(敷地内): 3  
 LR1 エネルギー: 2  
 LR2 資源・マテリアル: 1  
 LR3 敷地外環境: 1

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 3.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.4

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

### 3 重点項目

#### ①地球温暖化への配慮

3.9

#### ③敷地内の緑化

4.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)  
72.2 %

建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)  
0.0 %

#### ②資源の有効活用

3.2

#### ④地域材の活用

4.0

<外装材に使用した地域性のある材料>  
ヒノキ材

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>  
御影石

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用  
 外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$   
 建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部						建物全体・共用部		住居・宿泊部分		全体								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点		重み 係数	評価点		重み 係数	評価点		重み 係数	全体									
		評価点	評価点	評価点	評価点		評価点	評価点														
<b>Q 建築物の環境品質</b>														3.7								
<b>Q1 室内環境</b>														3.2								
<b>1 音環境</b>														3.3								
1.1 室内騒音レベル														0.4	3.3	0.15						
1.2 遮音														3.0	3.0	0.40			3.0			
1 開口部遮音性能														0.4	3.8	0.40						
2 界壁遮音性能															3.0	0.60			3.0			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)															5.0	0.40			3.0			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)															3.0	-			3.0			
1.3 吸音															3.0	0.20			3.0			
<b>2 温熱環境</b>														0.3	3.2	0.35						
2.1 室温制御														0.5	3.0	0.50						
1 室温														3.0	2.0	0.38			3.0			
2 外皮性能														3.0	3.0	0.25			3.0			
3ゾーン別制御性														3.0	4.0	0.38						
2.2 湿度制御														3.0	1.0	0.20			3.0			
2.3 空調方式														3.0	5.0	0.30			3.0			
<b>3 光・視環境</b>														0.2	2.9	0.25						
3.1 昼光利用														0.3	2.2	0.30						
1 昼光率														3.0	1.0	0.60			3.0			
2 方位別開口																-			3.0			
3 昼光利用設備														3.0	4.0	0.40			3.0			
3.2 グレア対策														0.3	3.0	0.30						
1 昼光制御														5.0	3.0	1.00			3.0			
3.3 照度														3.0	4.0	0.15			3.0			
3.4 照明制御														3.0	3.0	0.25			3.0			
<b>4 空気質環境</b>														0.2	3.8	0.25						
4.1 発生源対策														0.5	4.0	0.50						
1 化学汚染物質														3.0	4.0	1.00			3.0			
4.2 換気														0.3	4.0	0.30						
1 換気量														3.0	5.0	0.33			3.0			
2 自然換気性能														3.0	3.0	0.33			3.0			
3 取り入れ外気への配慮														3.0	4.0	0.33			3.0			
4.3 運用管理														0.2	3.0	0.20						
1 CO <sub>2</sub> の監視														3.0	3.0	0.50						
2 喫煙の制御														3.0	3.0	0.50						
<b>Q2 サービス性能</b>														-	-	0.30						
<b>1 機能性</b>														0.4	3.7	0.40						
1.1 機能性・使いやすさ														0.4	3.0	0.40						
1 広さ・収納性														3.0	3.0	0.33			3.0			
2 高度情報通信設備対応														3.0	3.0	0.33			3.0			
3 バリアフリー計画														3.0	3.0	0.33						
1.2 心理性・快適性														0.3	4.3	0.30						
1 広さ感・景観 (天井高)														3.0	3.0	0.33			3.0			
2 リフレッシュスペース														3.0	5.0	0.33						
3 内装計画														3.0	5.0	0.33						
1.3 維持管理														0.3	4.0	0.30						
1 維持管理に配慮した設計														3.0	4.0	0.50						
2 維持管理用機能の確保														3.0	4.0	0.50						
<b>2 耐用性・信頼性</b>														0.3	3.2	0.31						
2.1 耐震・免震・制震・制振														0.4	3.0	0.48						
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.0	3.0	0.80						
2 免震・制震・制振性能														3.0	3.0	0.20						
2.2 部品・部材の耐用年数														0.3	3.3	0.33						
1 躯体材料の耐用年数															3.0	0.23						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔															2.0	0.23						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔															5.0	0.09						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔															4.0	0.08						
5 空調・給排水配管の更新必要間隔															5.0	0.15						
6 主要設備機器の更新必要間隔															3.0	0.23						
2.4 信頼性														0.1	3.8	0.19						
1 空調・換気設備														3.0	5.0	0.20						
2 給排水・衛生設備														3.0	5.0	0.20						
3 電気設備														3.0	3.0	0.20						
4 機械・配管支持方法														3.0	3.0	0.20						
5 通信・情報設備														3.0	3.0	0.20						

<b>3 対応性・更新性</b>			0.2	4.0	0.29	-	-	4.0
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31	-	-	4.0
1	階高のゆとり	階高5950	-	5.0	0.60	-	3.0	-
2	空間の形状・自由さ	壁長比率 0.051	3.0	5.0	0.40	-	3.0	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	4.0	0.31	-	3.0	-
			積載荷重 床1.68倍 他割増なし			-	-	-
3.3 設備の更新性			0.3	3.4	0.38	-	-	-
1	空調配管の更新性	②	-	3.0	0.17	-	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-
3	電気配線の更新性	壁立上部は配管保護により更新可能	3.0	5.0	0.11	-	-	-
4	通信配線の更新性	壁立上部は配管保護により更新可能	3.0	5.0	0.11	-	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	-	0.30	-	-	4.4
1 生物環境の保全と創出			独自③	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	4.0	0.30	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	4.0	0.50	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上				4.0	0.50	-	-	-
			敷地内探掘御影石を外構に使用。底、吹抜にハイサイドライト			-	-	-
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	-	3.4
<b>LR1 エネルギー</b>			-	-	0.40	-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制				4.0	0.30	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	4.0	0.20	-	4.0
			ハイサイドライト			-	-	-
3 設備システムの高効率化				3.0	3.5	0.30	-	3.5
			BEI 0.73			-	-	-
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	3.0
			集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00
			4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50
			4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50
			集合住宅の評価			-	-	-
			4.1 モニタリング			-	3.0	-
			4.2 運用管理体制			-	3.0	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水			3.0	4.0	0.40	-	-	-
			断水コマ、節水型便器使用			-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-
			1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67
			2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.0	0.63	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減			②	2.0	0.07	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			独自	3.0	0.25	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.21	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	1.0	0.21	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	3.0	5.0	0.25	-	-
			鋼縁・パネル・断熱(GW)			-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	2.6	0.22	-	-	2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	2.5	0.68	-	-	-
			1 消火剤			-	-	-
			2 発泡剤(断熱材等)			-	2.0	0.50
			3 冷媒			3.0	3.0	0.50
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			①	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			0.3	2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25	-	-	-
			独自	3.0	0.25	-	-	-
			独自	3.0	0.25	-	-	-
			独自	4.0	0.25	-	-	-
			独自	2.0	0.25	-	-	-
			充分な駐車スペース、荷捌スペースの確保			-	-	-
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-
			独自	3.0	1.00	-	-	-
			独自	-	-	-	-	-
			独自	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-
				3.0	0.70	-	-	-
				3.0	-	-	-	-
				3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-
				3.0	0.70	-	-	-
				3.0	0.30	-	-	-
				3.0	0.30	-	-	-

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

トヨタテクニカルセンター下山 Ⅱ期 中工区 宅盤6

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.9</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.2</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	4.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>4.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09	外構緑化:72.2%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>4.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-	ヒノキ材
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	御影石

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 トヨタテクニカルセンター下

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車両開発の生産性向上</li> <li>・自然エネルギーを積極的に活用し、居住環境にも配慮した省エネルギーな施設づくり</li> <li>・人と自然がつながる自然共生型施設の実現</li> </ul>
Q1 室内環境	南北面は自然光を取り込む開口部を積極的に設け、日射遮蔽ガラスによるペリメータエリアの快適化に配慮。東西面は壁面により日射遮蔽しつつ、スリット状の開口部を設け、方位特性に応じた窓計画に配慮。
Q2 サービス性能	社員の食事スペース、休憩スペースの充実、コミュニケーションを促進するクロスファンクションフロアの設置によるアメニティ向上
Q3 室外環境(敷地内)	積極的な敷地内緑化と自然換気システムの導入による風通しのよい建築計画とすることで、敷地内の温熱環境に配慮。
LR1 エネルギー	用途に合わせた空調方式の採用、LED照明・照明制御により消費エネルギーを低減。
LR2 資源・マテリアル	衛生器具は節水型を採用し、F☆☆☆☆建材の採用により、地球環境に配慮。
LR3 敷地外環境	敷地内緑化によりCO2削減。十分な駐車スペースや廃棄物処理スペース、荷捌きスペースを確保。
その他	